

伝える大震災、つながる防災

災害メモリアルアクションKOBЕ

ACTION 2022

定員：先着60名
参加無料

※密を避けるため、会場内の参加者数を常に60名以内に保ちます。60名を超える場合は、入場をお断りいたします。※会場にお越しになる場合は、マスク着用をお願いします。
※感染拡大の状況により会場での開催を中止とさせていただく可能性がございます。

KOBЕのことば

活動報告会

日時 **2022.1.8 [SAT]**
10:00 → 13:30

会場 阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

これまで「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸(1996～2005)」そして、その教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアル KOBЕ(2006～2015)」を実践してきました。

2016年からこの先の10年を見据え「KOBЕのことば」をキーワードに「災害メモリアルアクション KOBЕ」という取り組みを開始しました。阪神・淡路大震災のつらい経験を二度と繰り返したくないという強い思いから、学んだことを次に活かすことができる形でないといけないという取り組みです。大震災から20年以上経った今だからこそ聞けることば。今しか聞けないことば。その個々の経験を未来へどう活かせるか。世代を超えて、共有し、話し合い、未来へつないでいく。今の KOBЕ だからこそできるアクションです。

近い将来起こりうる南海トラフ巨大地震を見据えて、これから大震災を経験するかもしれないすべての人びとへ、防災の意識を継続させ、少しでも被害を小さくするために、「未災者」が大震災を知り、さらに「未災者」に伝え、つないでいく、新しいチャレンジです。

私たちはこれまでにないアクションにより、継続的な取り組みの検証と検討の場を通して、将来の被災者を減らします。

ライブ配信・アーカイブ

1/8当日は以下のFacebookページにてライブ配信を行う予定です。また、1/8～1/31の間、アーカイブをご覧ください。

<https://www.facebook.com/DisasterMemorialActionKOBЕ>



プログラム

※敬称略

10:00 開会挨拶

- 災害メモリアルアクションKOBЕ 企画委員会委員長
- 人と防災未来センター 上級研究員
- 京都大学防災研究所 教授 牧 紀男

10:05 活動発表

- 発表：①兵庫県立舞子高等学校
- ②兵庫県立明石南高等学校
- ③滋賀県立彦根東高等学校
- ④国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
(明石高専防災団) 開発チーム
- ⑤国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
(明石高専防災団) 地域連携チーム
- ⑥神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ
- ⑦神戸学院大学 クローズアップ社会研究会
- ⑧関西大学 社会安全学部 奥村研究室
- ⑨兵庫県立大学防災リーダー教育プログラムチーム

12:30 パネルディスカッション

「わたしたちが『聴く』ことって・・・」

- コーディネーター：京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 助成 中野元太
- 人と防災未来センター 研究部 研究員 林田 怜菜
- グラフィックファシリテーション：株式会社たがやす 出村 沙代
- 大阪防災プロジェクト共同代表 多田 裕亮
- パネリスト：災害メモリアルアクションKOBЕ 各参加団体代表者

13:25 講評・閉会挨拶

- 災害メモリアルアクションKOBЕ 企画委員会顧問
- 人と防災未来センター長 河田 恵昭

主催：人と防災未来センター、京都大学防災研究所
共催：京都大学防災研究所自然災害研究協議会近畿地区部会
企画：災害メモリアルアクションKOBЕ企画委員会
後援：兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会/朝日新聞神戸総局/読売新聞神戸総局/毎日新聞神戸支局/産経新聞神戸総局/神戸新聞社/NHK神戸放送局/ラジオ関西/神戸学院大学/明石工業高等専門学校/関西大学社会安全学部/兵庫県立舞子高等学校/兵庫県立明石南高等学校/兵庫県立大学



全体テーマ:

KOBÉのこぼ

「KOBÉ」とは、阪神・淡路大震災の被災地域全体と、災害の影響を受けたひと、そして災害後まちのために活動したひと、すべてを表現しています。阪神・淡路大震災から27年、大震災を直接経験していない若い世代の人たちが、災害を経験した人々へのインタビュー、アンケート、交流事業などの活動を通じて、次世代に伝えるべき「KOBÉのこぼ」を紡ぎ、活かし、広げます。「過去・いま・未来」を見据え、世代を超えて活動する、最先端のアクションです。

パネルディスカッションテーマ:

わたしたちが「聴く」ことって・・・

未災者から未災者へと語り継ぐことを目指す災害メモリアルアクションKOBÉ。未災者が語り継ぐとき、まず震災を「聴く」ことから始める。体験者に聴く、身近な先生に聴く、過去の記録に聴く、社会に聴く。様々な「聴く」スタイルを実践するメモリアルアクションの学生たちにとって「聴く」とは何だろうか。未災者の「聴く」を語り合おう。

兵庫県立明石南高等学校



日常の地域の繋がりが防災の原点という「土手の花見」を活動理念とする「有志生徒の集団」による地域防災チームです。発足から9年目となり明石市を中心とする地域の活動の幅が広がっています。「絆〜地域で繋がる防災」をテーマにできることを楽しく取り組んでいます。

滋賀県立彦根東高等学校 新聞部



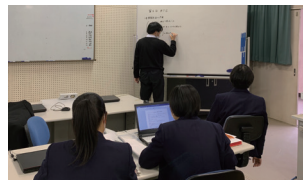
「福島をつなぐ」と題して東日本大震災や阪神淡路大震災、防災の取材をはじめ10年が経ちました。当事者でないのに伝え続けることに葛藤を感じながら、伝える意義を考えています。今年は滋賀で112年前に起きた姉川地震取材し、今もなお姉川地震について伝える人々取材しました。

兵庫県立大学防災リーダー教育プログラムチーム



兵庫県立尼崎小田高等学校は、普通科看護医療・健康類型を中心として地域防災力向上に貢献する活動を継続的に実施しています。毎年、地域住民が参加できる「あまおだ減災フェス」を開催しています。また、兵庫県立大学防災リーダー教育プログラムの学生は、「あまおだ減災フェス」の企画・運営を支援しています。ここでは、「あまおだ減災フェス」の活動内容、尼崎小田高等学校の地域活動について報告します。

兵庫県立舞子高等学校



「私たちが、被災者と未災者をつなぐ架け橋になろう。これが舞子高校環境防災科メモリアルアクションチームの合言葉です。語り継ぐということをもっと大切にできた環境防災科の生徒として、体験者のこぼを聴き、それを伝え広めることで、防災につなげていきたいと思っています。

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135° (明石高専防災団)



地域連携チーム

学校や児童館での防災授業と、地域のNPO法人と連携した防災ワークショップを進めています。避難所運営ゲーム「チャレンジ!」や防災ボードゲーム「RESQ」の体験、クイズを交えた講義などを通して、防災を楽しんで学んでもらうことをコンセプトに活動しています。



開発チーム

防災ゲームの開発や改良、防災クイズの製作を行っています。今年度は、避難所運営ゲームをオンライン化した「チャレンジ!オンライン」改良や、防災カードゲーム「TRY!」開発を進めています。高専生ならではのアイデアが詰まった、遊んで学べる防災ゲーム作りを続けています。

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科



安富ゼミ

安富ゼミでは今年、「どうすれば人は逃げるのか」をテーマに、アンケートやインタビュー調査を岡山県倉敷市真備町岡田地区と神戸市灘区篠原台で実施。避難情報は多くありますが、実際に逃げる人は少ないのが現状です。なぜ、逃げないのか、どうすれば逃げてもらえるのか、考えています。



クローズアップ社会研究会

私たちは、現代社会学部の学生を中心に、身の回りで起こっている社会問題・時事問題について研究をしています。現在は選挙に見る首長候補の災害対策を公約という目線から研究中です! また、研究報告として各選挙にてルポルタージュなどを行い独自新聞を発刊中!

関西大学 社会安全学部 奥村研究室



阪神・淡路大震災で、大きな精神的ストレスと劣悪な生活環境によって失われる命があるということが初めて広く社会に認知されました。「災害関連死」です。私たちは、その後も繰り返される関連死の発生状況を分析するとともに、当時の教訓は生かされているのかを検証しています。